

『精選 言語文化 改訂版』（言文 015-901） 年間学習指導計画作成のための資料

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
		日本語の響き ●言葉の響きやリズムを味わい、日本語の変遷について理解する	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「日本語の響き」を声に出して読み、言葉の響きやリズムを理解する。 ・日本語の文体や文字遣いが時代とともにどのように変化してきたか理解する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(2)エ) ・言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。(2)オ) 思・判・表 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	1 古文入門	古文の世界へ 児のそら寝 古文を読むために①歴史的仮名遣い／五十音図・いろは歌 検非違使忠明 古文を読むために②品詞分類／用言と活用形／動詞／省略 絵仏師良秀 四知を恥づ 古文を読むために③形容詞／形容動詞／係り結びの法則／仮定条件と確定条件 ●古文の世界にふれる意義について考え、言語文化に関心をもつ ●文語のきまりや古典特有の表現について理解する ●説話の内容や構成を的確に捉え、登場人物の心情や展開のおもしろさを読み取る	2	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「古文の世界へ」を読む ・歴史的仮名遣いに注意して繰り返し音読する。 ・児が心の中で思っている部分を全て抜き出し、心の動きと行動を整理する。 ・児が「寝たる由」をしていることに僧たちが気がついたのはいつか話し合う。 ・「前の谷に踊り落つるに、」の時の、忠明の様子について説明する。 ・「立ち並みて見ける。」の時の、京童部たちの気持ちについて説明する。 ・良秀が「これこそ、せうとくよ。」と言った理由を説明する。 ・絵を描くことに対する良秀の姿勢をどう思うか話し合う。 ・人々が趙柔を敬った理由を説明する。 ・「四知を恥づ」という態度についてどう考えるか話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア) ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。(1)エ) ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。(2)ア) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2)ウ) ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(2)エ) 思・判・表 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) 主 ・進んで文語のきまりについて理解し、自分のものの見方を深め、学習課題にそって作品の内容について批評しようとしている。 ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	2 随筆	枕草子 【参考】春はあけぼの ありがたきもの 九月ばかり 徒然草 【参考】つれづれなるままに 丹波に出雲といふ所あり 奥山に、猫またといふものありて 亀山殿の御池に 今日は、そのことをなさんと思へど 神無月のころ ●古典の言葉の特徴について理解する ●随筆に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る 学びを広げる 章段の読み比べ 「家居のつきづきしく」 言語文化の扉 古典の四季・美意識 古文を読むために④助動詞 ●同じ随筆の異なる章段を読み比べ、そこに表れている筆者の認識や感性、人間観について考えを深める	5	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「つひに見えぬ」とはどういうことか説明する。 ・本文から、当時の文学作品の享受のされ方について考える。 ・自分の思う「ありがたきもの」を理由とともに発表する。 ・「人の心には……またをかしけれ。」から読み取れる筆者の思いを説明しよう。 ・本文に描かれている「露」の情景について整理する。 ・上人の行動と心の動きを順を追って整理する。 ・「上人の感涙いたづらになりけり。」にこめられた筆者の思いについて話し合う。 ・猫またのうわさを聞いて法師が考えた内容を本文から抜き出す。 ・法師の心の状態について話し合う。 ・筆者がこの話を書き記した理由について話し合う。 ・「大井の土民」の記述と対応する「宇治の里人」についての記述を抜き出す。 ・筆者がこの話を書き記した理由について話し合う。 ・筆者が述べていることに対して、適切な具体例を自分の経験などからあげる。 ・「不定と心得ぬのみ、まことに違はず。」という筆者の考えについてどのように考えるか話し合う。 ・「つゆおとなふものなし。」とはどのような様子を表したのか説明する ・筆者が「柑子の木」を見て「少しことさめ」た理由について話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。 ◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「神無月のころ」と「家居のつきづきしく」を読み比べ、受けとめ方の違いについて話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。(1)エ) ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(2)イ) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2)ウ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2)カ) 思・判・表 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) 主 ・文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章に表れているものの見方を捉えて内容を解釈し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。 ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ) ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。(Bウ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	3 物語	竹取物語 かぐや姫の生ひ立ち 伊勢物語 芥川 東下り 筒井筒 言語文化の扉 平安時代の成 人と結婚 古文を読むために⑤助詞 ●物語の歴史的・文化的 背景について理解する ●物語の内容を的確に捉 え、登場人物の言動や心 情を読み取る 学びを広げる 古典作品の翻案を読む ●古文を翻案した小説を 読み、作品の解釈を深め る	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「三寸ばかりなる人」の不思議さを説明する。 ・竹取の翁の生活の変化について説明する。 ・翁が「男はうけきらはず呼び集へ」た理由について話し合う。 ・男の行動を順を追って整理する。 ・記述をもとに、女の人物像について説明する。 ・「白玉か……」の歌にこめられた男の心情を説明する。 ・男が京から東国へ旅立った時の思いを説明する。 ・「唐衣きつつ……」の歌に詠まれた「旅の心」について説明する。 ・駿河の国で詠まれた二つの歌にこめられた心情をそれぞれ説明する。 ・「名にし負はば……」の歌を聞いた際の「みな人」の思いについて話し合う。 ・三つの和歌に表現された相手への思いについて説明する。 ・二人の女の行動や歌を整理し、それに対する男の心情を説明する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。(1)オ) ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(2)イ) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2)ウ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2)カ) 思・判・表 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) 主 ・進んで作品の文化的背景を理解し、文章の種類を踏まえて内容や展開についての的確に捉え、学習課題にそって古文と現代の小説を読み、批評しようとしている。 ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ) ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。(Bウ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	4 和歌	万葉集 古今和歌集 新古今和歌集 和歌の世界へ 古文を読むために⑥和歌の修辞 言語文化の扉 和歌——つながろうとする言葉 ●和歌の特徴や表現の技法について理解する ●和歌に描かれた情景や心情を読み取る 学びを広げる 和歌の英訳を日本語に訳し直す ●和歌の英訳を日本語に訳し直し、和歌の表現への理解を深める	5	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 - 句切れに注意して各歌を音読する。 - 印象に残った歌を選び、そこに描かれた情景や思いを説明する。 - 万葉仮名による表記について、気づいたことを話し合う。 ●句切れに注意して各歌を音読する。 - 印象に残った歌を選び、そこに描かれた情景や思いを説明する。 - それぞれの歌に用いられている修辞を指摘し、その効果を説明する。 ●句切れに注意して各歌を音読する。 - 印象に残った歌を選び、そこに描かれた情景や思いを説明する。 『新古今和歌集』の和歌と《参考》にあげた和歌との関係について、気づいたことをまとめる。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。 ◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 - 英訳された和歌を、辞書を用いて日本語に訳し直す。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 - 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア) - 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) - 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。(1)オ) - 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。(2)ア) 思・判・表 - 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) - 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ) 主 - 進んで我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解し、他の作品などとの関係を踏まえて内容の解釈を深め、学習課題にそって詩歌の表現技法についてまとめようとしている。 ◆言語活動例 - 和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動。(Bエ) - 古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。(B オ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	5 軍記	平家物語 祇園精舎 木曾の最期 ●軍記特有の文体や語りの特徴について理解する ●軍記の内容を的確に捉え、登場人物の言動や心情を読み取り、その認識や人生観について考えを深める 学びを広げる 受け継がれる『平家物語』 言語文化の扉 装束描写が生み出す効果 古文を読むために⑦敬語 ●古典を題材とした後世の作品を調べ、言語文化の継承について考えを深める	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・対句表現に注意しながら朗読する。 ・「春の夜の夢」、「風の前の塵」がたとえている内容を説明する。 ・「巴との別れ」を読み、義仲と巴の言動から、それぞれの心情をまとめる。 ・「御身もいまだ疲れさせ給はず。」「御身は疲れさせ給ひて候ふ。」と反対のことを言った兼平の、その時々々の気持ちを説明する。 ・主従二騎になってからの、義仲の心情の変化を、兼平に対する言動に即して整理する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア) ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(2)イ) ・言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。(2)オ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2)カ) 思・判・表 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) 主 ・文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、作品の成立した背景を踏まえて内容の解釈を深め、学習課題にそって古典から受け継がれてきた芸能の題材について調べて発表しようとしている。 ◆言語活動例 ・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。(Bオ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	6 日記・紀行	土佐日記 門出 忘れ貝 帰京 言語文化の扉 月と暦 奥の細道 旅立ち 立石寺 大垣 ●日記が書かれた歴史的・文化的背景について理解する ●日記・紀行の構成や表現の特色を理解し、和歌・俳諧の表現が果たす役割について考えを深める	2	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 - 文章の表現のおもしろさについて説明する。 「守柄にや……しもあらず。」に表れた作者の思いについて説明する。 - 作者がこの日記を女性の立場で書き記した理由を調べる。 「寄する波……」「忘れ貝……」の歌にこめられた心情をそれぞれ説明する。 「親、幼くなりぬべし。」とは、どのような様子か話し合う。 「手を漬てて……」の歌にこめられた心情について説明する。 - 京に着いてからの作者の心情の変化を、展開に即して整理する。 「生まれしも……」「見し人の……」の歌にこめられた心情について話し合う。 「門出」の場面と読み比べ、表現や内容の対応が見られる箇所を指摘する。 - 音読し、対句的な表現を抜き出す。 - 旅に出る前と旅立ちの際の作者の気持ちを整理する。 「草の戸も……」「行く春や……」の句にこめられた心情について説明する。 - 作者は立石寺で何に心を動かされたか説明する。 「閑かさや……」の句に詠まれた情景について説明する。 「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」の句について、推敲前の句と比較して、どのような違いが感じられるか話し合う。 - 作者と門人たちの心情を考える。 「蛤のふたみに別れ……」の句にこめられた心情について説明する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 - 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。(1)オ) - 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。(2)ア) - 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(2)イ) 思・判・表 - 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) - 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ) 主 - 進んで作品の文化的背景を理解し、作品と他の作品との関係を踏まえて内容の解釈を深め、文章の表現の仕方、表現の特色について評価しようとしている。 ◆言語活動例 - 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(B イ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
		学びを広げる 紀行文を書く 言語文化の扉 古典における「旅」 ●訪れた場所の歴史や文化を調べ、その価値を伝える紀行文を書く	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・旅で訪れた場所について歴史や文化を調べ、紀行文を書く。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。((1)ア) ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かなにしている。((1)ウ) 思・判・表 ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。(Aア) ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。(Aイ) 主 ・我が国の言語文化に特徴的な語句を文章の中で使い、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にし、旅で訪れた場所について歴史や文化を調べ、紀行文を書こうとしている。 ◆言語活動例 ・本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする活動。(Aア)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	1 漢文入門	漢文の世界へ 成句・格言を読む(1)漢文の基本構造 漢文を読むために①漢文の基本構造と訓読 成句・格言を読む(2)置き字 漢文を読むために②置き字 成句・格言を読む(3)再読文字 漢文を読むために③再読文字 ●現代と漢文の世界とのつながりを理解し、言語文化に関心をもつ ●漢文を読むために必要な訓読のきまりを理解する	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「漢文の世界へ」を読む。 ・漢文の基本構造について理解する。 ・置き字の基本的な用法について理解する。 ・再読文字の基本的な用法について理解する。 ・「課題」にとりくむ。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2)ウ) ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(2)エ) 思・判・表 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) 主 ・進んで我が国の文化と外国の文化との関係について理解し、自分のものの見方や考え方を深め、学習課題にそって我が国の言語文化について考えたことを発表しようとしている。 ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(B イ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	2 故事成語	漁父之利 借虎威 朝三暮四 推敲 ●故事成語の由来について理解する ●故事成語のもととなった漢文を読み、教訓や風刺を読み取る 学びを広げる 今に生きる故事成語 言語文化の扉 身近にある漢文 漢文を読むために④漢和辞典の活用 ●故事成語を使って短い文章を作り、語彙を豊かにする	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・本文を繰り返し音読する。 ・「漁父の利」が現在どのような意味で使われているか調べる。 ・「然」の内容を具体的に説明する。 ・「虎の威を借る」が現在どのような意味で使われているか調べる。 ・衆狙が怒ったり喜んだりした理由を説明する。 ・「朝三暮四」は、狙公と衆狙のどちらの立場で考えるかによって意味が異なるということに注意して、現在どのような意味で使われているか調べる。 ・韓愈が「敲」の字をよいとした理由について、動作の違いに注意して説明する。 ・「推敲」が現在どのような意味で使われているか調べる。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。((2)ウ) ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。((2)エ) 思・判・表 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ) 主 ・進んで古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解し、内容や展開についての的確に捉え、学習課題にそって古典から受け継がれてきた表現の技法などについて調べようとしている。 ◆言語活動例 ・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。(Bオ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	3 史話	先従隗始 鶏鳴狗盗 臥薪嘗胆 ●漢文を読むために必要な句法を理解する ●史話の内容や構成を的確に捉え、登場人物の言動や心情を読み取る 学びを広げる 史話の登場人物 言語文化の扉 春秋・戦国時代 ●史話に描かれた人物の言動に着目して、生き方について考える	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「千里馬」、「死馬」は、どのような人物を指しているか説明する。 ・郭隗の弁舌の巧みさはどのような点にあるか話し合う。 ・「為狗盗者」と「為鶏鳴」者が、それぞれどのようにして孟嘗君の危機を救ったか説明する。 ・賓客たちが「尽羞之。」と「皆服。」という態度をとった理由を考える。 ・登場人物を呉側と越側とに分けて、人物関係を整理する。 ・「臥薪」と「嘗胆」は、それぞれどのような行為か。また、そのようなことをする理由を説明する。 ・遺言に込められた子胥の心情と、夫差の最後の言葉にこめられた心情について話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。 ◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「史話」に登場する人物の生き方について話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(2)イ) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2)ウ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2)カ) 思・判・表 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) 主 ・進んで作品の歴史的背景等を理解し、内容や展開などについての的確に捉え、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。 ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	4 漢詩	唐代の詩 漢文を読むために⑤漢詩の表現 漢詩の世界へ ●漢詩の表現形式や技法について理解する ●漢詩に描かれた情景や心情を読み取る 学びを広げる 訳詩の試み 言語文化の扉 李白と杜甫 ●唐代の漢詩を、表現を工夫して訳す	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 - それぞれの詩形・押韻を調べる。 - 詩に表現されている情景や心情について整理する。 - 好きな詩を選んで暗唱し、その詩が作られた背景を調べて発表する。 ●それぞれの詩を音読する。 ●それぞれの詩が季節の情景をどのように表現しているかまとめる。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 - 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア) - 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。(1)オ) - 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2)ウ) 思・判・表 - 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) - 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) - 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) 主 - 我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解し、作品に表れているものの感じ方を積極的に捉えて内容を解釈し、学習課題にそって漢詩を訳そうとしている。 ◆言語活動例 - 和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動。(Bエ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	5 文章	雑説 愛蓮説 ●漢文特有の語句について理解する ●文章の展開や構造を理解し、筆者の主張を読み取る	2	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・段落ごとの要旨を簡潔にまとめる。 ・「伯樂」と「千里馬」はそれぞれ何のたとえとして用いられているか説明する。 ・筆者はこの文章で何を訴えようとしているか話し合う。 ・「蓮」の優れている点を箇条書きでまとめる。 ・「菊」「牡丹」「蓮」の特徴をそれぞれ説明する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。(1)エ) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2)ウ) 思・判・表 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) 主 ・進んで文章の意味が文脈の中で形成されることを理解し、文章に表れている考え方を捉えて内容を解釈し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。 ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	6 思想	論語 ●『論語』の言葉について考えを深め、漢文の言葉と現代の言葉とのつながりを理解する ●学問・人間・政治についての孔子の主張を読み取る	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・繰り返し音読する。 ・孔子が考える「学問」に向かう姿勢についてまとめる。 ・孔子が考える「人間」のあるべき姿についてまとめる。 ・孔子が「政治」を執り行う者の姿勢として大切だと述べていることをまとめる。 ・印象に残る『論語』の言葉を、その理由とともに発表する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。((1)ア) ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。((2)イ) ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。((2)エ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。((2)カ) 思・判・表 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) 主 ・進んで古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解し、自分自身のものの見方、考え方を深め、学習課題にそって古典から受け継がれてきた内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表しようとしている。 ◆言語活動例 ・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。(Bオ)
		学びを広げる 今に生きる『論語』 言語文化の扉 孔子と門人 ●孔子が理想とする人間像について考える		◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・『論語』の「君子」と「小人」を対比した記述を参考に、孔子が理想とした「君子」のあり方を考え、話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	1 小説 1	羅生門 【参考】羅城門登上層見死人 盗人語第十八 レッスン 文学を読むために①語り手 ●作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を適切に読み取る 学びを広げる 小説の書き換え ●語りの仕組みを理解し、視点を变えて物語を書き換える	6	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 - 作品の背景となっている京都の町や羅生門の描写から、当時の社会状況についてまとめる。 - 下人が羅生門の下に至るまでの経緯をふまえ、門の下での下人の心情についてまとめる。 - 楼に上って以降の下人の心理の推移を、箇条書きにして整理する。 - 老婆が自分の行いについて語る内容と、下人の受け止めについて整理する。 「下人と老婆」のその後の物語は、どのようなものになると思うか話し合う。 ●小説のもととなった説話を読み、書きぶりや展開の共通点や相違点を発表する。 「その日」までの「あたし」の「先生」に対する印象を本文から抜き出す。 「その日」の「先生」の言動を整理する。 「あたし」の中に起こった変化について話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 - 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) - 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) - 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。(1)エ) - 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(2)イ) 思・判・表 - 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) - 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) - 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ) - 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) 主 - 文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて粘り強く捉え、学習課題にそって小説を書き換えようとしている。 ◆言語活動例 - 和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動。(Bエ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	2 詩	小諸なる古城のほとり 時計 言語文化の扉 近代詩と翻訳詩 サーカス シジミ I was born 文学を読むために②比喩・反復 ●詩の特徴的な表現の技法とその効果について理解する ●さまざまな詩の形式にふれ、描かれた情景や心情を理解する	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 - 詩を繰り返し音読し、表現やリズムの特徴を指摘する。 - 否定の表現を全て指摘し、詩全体の中でどのような効果をもたらしているか説明する。 「濁り酒濁れる飲みて／草枕しばし慰む」にはどのような思いがこめられているか話し合う。 ・詩を繰り返し音読し、表現やリズムの特徴を指摘する。 「古いさびしい空家の中で／椅子が茫然として居るではないか。」「幽霊のやうにほごれてくる／柱時計の錆びついた響を聴いた。」の詩句は、どのような様子を表現しているか説明する。 「じぼ・あん・じやん！ じぼ・あん・じやん！」という表現は、この詩の世界にどのような効果をもたらしているか話し合う。 ・詩を繰り返し音読し、表現やリズムの特徴を指摘する。 「安値いりボンと息を吐き」「観客様はみな鰯」「咽喉が鳴ります牡蠣殻と」の詩句は、どのような様子を表現しているか説明する。 「ゆあーん ゆーん ゆやゆよん」は何を表現しているか話し合う。 ・詩を繰り返し音読し、表現やリズムの特徴を指摘する。 - 第二連の片仮名表記はどのような印象を生み出しているか説明する。 「鬼ババの笑いを／私は笑った」「それから先は／うつすら口をあけて／寝るよりほかに私の夜はなかった」の詩句から読み取れる「私」の思いについて話し合う。 ・詩を繰り返し音読し、表現やリズムの特徴を指摘する。 「白い女」は、作品の中でどのような役割を果たしているかイメージの効果に着目して説明する。 「——やっぱり I was born なんだね——」という「僕」の言葉は、どのような気持ちから出たものであったか説明する。 「父」は「蜉蝣」の話にどのような思いをこめたのか話し合う。 ・読み方を工夫し、朗読会を開く。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 - 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア) - 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) - 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(2)エ) 思・判・表 - 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) - 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) 主 - 進んで我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解し、作品に表れているものの見方や感じ方を積極的に捉えて内容を解釈し、学習課題にそって互いの解釈の違いについて話し合おうとしている。 ◆言語活動例 - 和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりしているなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動。(Bエ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	3 小説2	夢十夜 予感 文学を読むために③寓意 ●物語と現実との関係に注目して、文章の意味を理解する ●作品の世界観を支える構成や表現の特色について理解する	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「第一夜」と「第六夜」の中で起こっているできごとを、「自分」の行動や認識に即して整理する。 ・「第一夜」で、「百年はもう来ていたんだな。」について、「自分」がこう思うのはなぜか説明する。 ・「第一夜」で、「百年」はどのような意味をもつか、考える。 ・「第一夜」で、女は「自分」にとってどのような存在か、話し合う。 ・「第六夜」で、「ついに明治の木にはとうてい仁王は埋まっていないものだ」と悟った。」について、「自分」は何をどのように悟ったと考えられるか話し合う。 ・「第六夜」で、「それで運慶が今日まで生きている理由もほぼわかった。」について、その「理由」を「自分」はどのように考えているか話し合う。 ・夢を叙述した他の作品を紹介して読み比べ、おもしろかった点や考えたことを発表する。 ・「わたし」はどのような人物と考えられるか、「いつか、これに似た何かが起こる」という予感はあった。」という表現を手がかりにまとめる。 ・「わたし」にとって「実家」はどのような意味をもつと考えられるかまとめる。 ・「贅沢なことを……証拠じゃないの。」という言葉を、「わたし」はどのように受け止めか話し合う。 ・結末部の会話に「」（かぎかっこ）がついていないという表現には、どのような効果があるか意見を出し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。(1)エ) 思・判・表 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) 主 ・進んで文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解し、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。 ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	4 短歌・俳句	その子二十 —短歌十六首 いくたびも —俳句十六句 文学を読むために④短歌・俳句の修辞 短歌・俳句の世界へ 言語文化の扉 短歌・俳句の鑑賞 ●短歌・俳句の形式と表現の技法について理解する ●作品に詠まれた情景や心情について理解する	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 - それぞれの短歌を音読し、その調べを味わう。 - それぞれの短歌について、句切れを調べ、句切れのもたらす表現効果について話し合う。 - 印象に残った短歌を選び、区切れとリズム、短歌に描かれた情景、印象的な表現、の三点に留意して感想を書く。 ●それぞれの俳句を音読し、その調子を味わう。 - それぞれの俳句について、季語とその季節を調べる。 - それぞれの俳句について、切れ字や句切れを調べ、その表現効果について話し合う。 - 印象に残った俳句を選び、季語の効果、切れ字・句切れの効果、印象的な表現、の三点に留意して、感想を書く。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 - 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア) - 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) - 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。(1)オ) 思・判・表 - 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) - 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) 主 - 進んで我が国の言語文化の特質について理解し、作品の解釈を踏まえて自分のものの見方、考え方を深め、学習課題にそって我が国の言語文化について論述しようとしている。 ◆言語活動例 - 我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする活動。(Bア)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
		学びを広げる 短歌・俳句を作る ●自分の思いが伝わるよう表現の仕方を工夫して、短歌・俳句を作る	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・五文字のテーマを設定して折句の短歌を作る。 ・季語を入れた俳句を作る。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。(1)オ) 思・判・表 ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。(Aア) ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。(Aイ) 主 ・進んで我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解し、自分の思いが効果的に伝わるよう表現の仕方を工夫し、今までの学習を生かして感じたことや発見したことを短歌・俳句で表現しようとしている。 ◆言語活動例 ・本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする活動。(A ア)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	5 小説3	待ち伏せ 文学を読むために⑤作品の背景 ●作品に描かれたものの見方を捉え、人間や社会について考えを深める ●作品の成立した背景をふまえ、内容の解釈を深める	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「私」が「戦争」で体験したできごとについて整理する。 ・「私」が手榴弾を投げてしまった理由について、本文の記述に即してまとめる。 ・「私」は、なぜ『まさか、殺してなんかいないよ』と言って、……しばらく抱いていたのか考える。 ・「私」は、「今」「ここ」で、「私の記憶している起こったこと」についてどのように考えているかを、「でもときどき、……見ることもある。」という文に留意してまとめる。 ・「私が戦争の話を書きつづけている理由」について話し合う。 ・ヴェトナム戦争について、テーマを決めて調べ、発表する。 ・「兄さんのよ。……なるべく和服ですますのよ。」と道子が言った理由と、その言葉に対する陸郎の反応を説明する。 ・「自分は今は……という感じだった。」とは、どういうことか説明する。 ・道子の異変に気づいたあとの母親の行動と、そのことについて相談を受けた父親の反応を整理する。 ・道子を追いかけていたはずの両親が「娘のことも忘れて」笑い合う場面で小説が結ばれていることについて、意見を出し合う。 ・「月の光」が繰り返し描かれていることにどのような意味があるか、意見を出し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。(1)エ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2)カ) 思・判・表 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) 主 ・進んで読書の意義と効用を理解し、作品や文章の成立した背景を踏まえて内容の解釈を粘り強く深め、作品の内容や形式について討論しようとしている。 ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)
	6 評論・随筆	日本語の表記法 ●日本語の表記法に対する筆者の見解を理解する 月の誤訳 ●異文化との交流を通して培われた筆者の考えを理解する	2	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・筆者の説明する日本語の表記の特異性について整理する。 ・「〈書き言葉〉は〈話し言葉〉の音を書き表したのではない」といえる理由を、萩原朔太郎の作品の例をもとに説明する。 ・表記の使い分けが「意味の生産」に関わっている具体例を探し、表現効果について話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア) ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。(2)ア) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2)カ) 思・判・表 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
		文学の未来 ●文学と人間の関係を論じる筆者の意識を捉える		◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「テキストが、……を必要とする。」とはどういうことか説明する。 ・「読書とはさわめて能動的な行為なのだ。」といえる理由を説明する。 ・「読むことはしたがって、自分の中にある他者を絶えず発見することにつながる。」とはどういうことか説明する。 ・「ここで我々はある一人の少女のことを思い出さずにはいられない。」として、筆者がアンネ・フランクの「日記」を取りあげている理由を話し合う。 ・モンテニユの言葉の引用が本文の展開においても役割を説明する。 ・これまで読んできた文学作品から、「自分と自分を取り巻く世界に対する意識ががらりと変化」させられた作品を取りあげ、発表し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) <u>主</u> ・進んで我が国の言語文化の特質について理解し、我が国の言語文化について自分の考えをもち、今までの学習を生かして我が国の言語文化について論述しようとしている。 ◆言語活動例 ・我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする活動。(Bア)
		学びを広げる 作品を読み直す ●作品を読み直して気づいたことを論述し、言語文化について考えを深める		◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・この教科書で読んだ作品の中から一つを選んで読み直し、最初に読んだときとの印象の違いや、改めて気づいたことなどをまとめ、その背景や理由について分析する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	